



園だより

11月号

令和 3年 10月 28日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

興味・関心が高まる中で

菊香が漂う季節となり、本園の花壇にも小菊が咲き始めました。晩秋を迎える中で、子どもたちには、身の回りの人や、もの、ことに興味・関心を高める姿が多くなりました。子どもたちは、興味や関心をもつと、「やってみたい」「やってみよう」と主体的に取り組み、そして、その過程で多くのことを学びます。

10月の温かな日差しの中で、年少児のAちゃんが、名残のオシロイバナを摘んでいました。オシロイバナは、「自由に摘み、楽しめるように」と教師が保育室前の花壇に植えたものです。赤、ピンク、黄、白と様々な色の花が咲く中で、Aちゃんは赤い花だけを摘んでいます。その後、「ビニール袋ちょうだい」と担任にもらいに行きました。ビニール袋に花と水を入れて揉むと綺麗な色水ができます。繰り返し楽しむ中で、花の色との関係が分かったAちゃんは、「赤い色水を作ろう」と赤色の花だけを集めたのです。「やってみたい」と思った時にすぐに取り組み、繰り返し楽しむ時間があるなど教師が環境を工夫する中でより興味・関心を高め、年少児も主体的に遊びを楽しみ、様々なことを学んでいます。さらに、自分の思いを大好きな担任に言葉で伝えようとする力も育ってきました。

年中児には、運動会で年長児のソーラン節やリレーを見た後、年長児への憧れの気持ちが高まっています。そこで担任は、年長児のように当番活動を行うことにしました。担任が行っていた「カタツムリの世話」を当番の仕事の一つとして取り入れ、餌を家から持って来ることにしました。当番になった子どもたちは、保護者の方と何を食べるのかを考えたり、一緒にインターネットで調べたりしたそうです。カタツムリの殻を強くするからと卵の殻を持ってきたり、食べやすいようにとリンゴを薄く切ってきたりと、それぞれが考え餌を持ってきました。食べかすを見ながら「ここを食べた」と喜んだり、食べ物によって糞の色が異なることに気づいたり、子どもたちの興味・関心はますます高まり、発見も多いようです。

オリンピック、パラリンピックが東京で開催され、年長児は、本来であれば車椅子バスケットボールを観戦するはずでした。担任は、一学期から子どもたちの世界の国や競技への興味・関心を高めるよう工夫をしてきました。そのため年長児は、夏季休業中のテレビ中継に興味深く見ていたようです。その結果、リレーやハードル、サッカーなどの競技を真似て様々な運動遊びを楽しむ姿が見られました。その中に、バスケットボールがあり、牛乳ケースをゴールに見立てて、そこにボールを入れてシュートする遊びを始めた子どもたちがいました。しかし、Bちゃんは「本当は上に向かってボールを投げるんだよ。これじゃない」と不満を言い始めました。本物らしくしたいという年長児ならではの思いです。子どもたちは担任にゴールのイメージを伝え、一緒に考えながら壁の高い位置にネット状のゴールをつけることになりました。より本物に近いものになり、シュートの工夫やドリブルへの挑戦など様々な動きを楽しみながら遊びを発展させています。幼稚園生活だけでなく、世の中にも目を向けて興味・関心を高め、自分の生活や遊びに取り入れようとする力が育っています。先日、箱根駅伝予選会があり、駿河台大学が初めて新春の箱根路を走ることになりました。このことも、子どもたちの身体を動かすことへの興味・関心を高めることにつながるのではと楽しみです。

子どもたちは、様々なことに興味・関心を高め、主体的に遊ぶ中で多くのことを学んでいます。そんな成長した子どもたちの姿を保育参観でご覧いただきたいと思います。



年長児は、1泊2日の箱根合宿に出かけました。サファリパークや水族園で動物や魚を見たり、遊覧船に乗ったりして興味・関心を高めています。



22日の創立記念行事では、太鼓や篠笛、民謡などの日本の伝統文化に触れ、子どもたちの興味・関心を広げる機会となりました。



年少児は、園外保育で拾ってきたダンゴリを様々な容器に入れて、音の違いに気付いたり、音楽に合わせてならしたりしながら楽しんでいます。



『すごいぞ! パラスポーツ』(チャイルド社) この絵本も子どもたちの興味・関心を高めることにつながりました。